

真光寺本堂



指定区分	国指定重要文化財(建造物)
読みかた	しんこうじほんどう
所在地	備前市西片上
指定年月日	昭和28年11月14日
解説	応永年間再建の三間堂を永正13年(1516)に五間堂に改修。単層の本瓦葺の入母屋造で、桁行五間、梁間五間である。妻飾は虹梁大瓶束式、軒は二重繁垂木、柱は総円柱、和様の組物を一手先として軒桁を受けている。内陣の奥には金箔押し如来迎柱を立てており、須弥壇と厨子を設けている。厨子の文様や彩色彫刻などは桃山時代の特色を示している。外陣は江戸時代に修理を行っているが、4本の大虹梁に刻まれた袖切眉[そできりまゆ]・錫杖彫[しゃくじょうぼり]などは室町時代の特徴をもっている。真光寺は行基が開基し、その後報恩大師が備前四十八ヶ寺の一つとして加えた真言宗の古刹。
アクセス方法	JR西片上駅から徒歩約5分
公開状況	外観のみ
設備	
備考	